

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①新学習指導要領を踏まえた指導方法と評価の工夫改善
- ②学習の基盤となる言語活動の充実

藍住南小学校  
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
教諭 池田智早都	校長(北岡八千代) 教頭(喜多佳英) 6年主任(元木里美) 1年主任(西谷基子) 2年主任(高原まゆみ) 3年主任(森北晶子) 4年主任(吉岡千江美) 5年主任(柴垣健太郎) 特別支援コーディネーター(堤さよこ・瀧口悠里) 指導方法工夫改善担当(山口タ子)

校長

北岡 八千代

【小中連携または中高連携における共通の取組】

児童生徒の学ぶ意欲向上のための授業改善(教員間の授業参観、「振り返りシート」の活用)

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字学習や計算練習に前向きに取り組んでいる。 ●学力に個人差があり、基礎基本の定着に課題をもつ児童が見られる。漢字を確実に覚えておらず、文章中で適切に使えていない。 ●語彙力が乏しく、読解力や聞き取る力、文章を書く力が不足している。	①基礎的・基本的な知識・技能について学年相応の力を身に付けることができる。 ②語彙数が増え、正しい言葉や漢字で読み書きしたりすることができる。 ③各教科の単元テストで、低学年は8割以上の児童が正答率80%、中・高学年は7割以上の児童が正答率75%を超えるようにする。	①朝のドリルタイムで漢字・計算等を行うことで基礎・基本の定着を図る。 ②語彙力を増やすために、音読や週末読書、NIEを継続的に実施する。 ③低学年は視写を継続的に取り入れ、中・高学年で辞書を活用する。	①朝の学習タイムでコグトレや漢字・計算の学習を継続的に行う。 ②「阿波っこタイムズ」などを活用し、週に一度NIEの曜日を決めて取り組む。 ③視写を継続的に実施する。また、朝会の話振り返り時間を取り、聴く力を育てる。	①個人差があるが、基礎的・基本的な技能について、学年相応の力が付いてきた。コグトレをすることで聞く力が育ってきているが、時間確保が難しい学年もある。 ②NIEの曜日を定めることで確実に実施できるようになってきた。 ③視写をすることで、速く丁寧に書ける児童が増えてきた。しかし、まだ表記に誤りがあるため、句読点を意識して書くよう指導していく必要がある。3年生から個人用の辞書を取り入れ、活用の習慣がついてきた。	①朝のドリルタイムは、学年の実態にあわせて、漢字・計算の基礎的事項、コグトレなどを継続して行う。遅刻してくる子どもがいるため、全員揃って取り組むことができるよう保護者に働きかける。 ②語彙力を増やすために、音読や週末読書・NIEを継続的に行う。 ③低学年は、視写教材を継続的に取り入れ、文章を正しく書く力を養う。2年生の3学期から辞書を個人で持てるように保護者に推奨し、低・中・高続けて積極的活用を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペアトークやグループトークの実践や継続により、自分の考えや思いを表現できる児童が増えてきた。 ●発展的に考えたり、自分なりに工夫して考えたりする児童が少ない。 ●全体の中では自信が持てず、自分の考えを表現できる児童が少ない。	①目的に応じて、理由を明らかにしながら、自分の考えや思いを適切に文章に表現することができる。 ②友達の考えと自分の考えを比べながら、聴き、考えをまとめたり伝えたりできる。 ③考えたことや伝えたいことを、適切な音量や速さで話すことができる。	①自分の考えや思いを文章に書いたり、タブレットやホワイトボードを使って人に伝えたりする活動を取り入れる。 ②「発表名人」を意識させたり、振り返りの視点や型を提示したりする。 ③ペアトークやグループトークを継続して行うことで、相手に伝わるような話し方を身に付けさせる。	①まずは言葉で表現させたり、定型文に当てはめたりさせたりして文章表現につなげる。 ②友達の意見をしっかり聞き、国語以外の教科でも積極的に考えを発表させる。 ③「発表名人」を意識させ、ペアトークやグループトークの中で、相手に伝わる話し方を練習させる。	①中学年以上の学年ではタブレットを使い、学習内容をまとめることができた。 ②発表の仕方を系統立てて提示したことで、学校全体としての指導が統一できた。 ③密を避け、できる範囲で行うことができた。	①自分の考えや思いを文章表現したものについて発表できる場を意図的に設けることで、児童の自信につなげる。 ②継続して意欲的に活用していく。 ③ペアトーク、グループワークの大枠の手順があると取り組みやすい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ほとんどの児童に「あいなん学習ルール」の定着がみられる。課題に真面目に取り組もうとしている。 ●自主学習の習慣が付いている児童と、まだ身に付いていない児童の差が大きい。正しい姿勢を保持しにくい児童が多い。	①「あいなん学習ルール」を身に付け、主体的に学習に取り組むことができる。 ②自分のめあてをもって自主学習に取り組むことができる。 ③スマホやタブレット、ゲーム等のメディアと上手につき合っていくように、メディアの使い方を見つめ直す。	①「あいなん学習ルール」を継続して指導し、体幹トレーニングを取り入れることで正しい姿勢の保持を促す。 ②自主学習の手引きや「めあて集」を活用し、主体的に学ぶ習慣を付けさせる。 ③児童のメディア利用の実態を把握し、メディアとの上手な付き合い方を指導すると共に、保護者に啓発する。	①体幹トレーニングを毎朝の日課に組み込み、全校で正しい姿勢の保持に取り組む。 ②手引きやめあて集を活用して、自主学習に継続して取り組ませる。 ③メディアとの上手な付き合い方についての資料を保護者に発信し啓発する。	①「あいなん学習ルール」を意識して学習できている。毎朝の体幹トレーニングに意欲的に取り組むことで、学習への取り組みにも効果が見られる児童もいる。 ②個人差が大きいですが、定着している児童もいる。 ③メディア利用の実態調査をもとにメディアとの上手な付き合い方を啓発することができた。	①定期的に「あいなん学習ルール」の振り返りを学年単位で実施したり、強化月間を設けたりする。体幹トレーニングを継続して行う。また、よい姿勢についての写真を常掲する。 ②家庭学習の手引きや「めあて集」を活用して取り組む。テーマを決めたり、曜日で教科を決めたりするなど、自主学習の方法を工夫する。 ③家庭と連携を図りながらメディアの上手な利用の啓発をする。

令和4年度 学力向上ロードマップ

